

## 令和6年度 大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

<b>所属名</b>	大阪教育大学附属池田小学校
<b>研究課題名</b>	附属池田小授研究推進プロジェクト
<b>研究課題概要</b>	<p>本研究は、昨年度附属池田小学校の授業研究過程の分析から見出した課題を基に、授業づくりにおいて教師がどのようにして省察を深め、授業観や自身の教育観、教師観を変容させるのかを、教師の実践記録に基づいて分析することを目的とする。</p> <p>昨年度の共同研究では、現在、一部の学校を中心に広がり始めている仮説検証型授業研究に対して、一般的に学校で行われている授業研究では、仮説が検証可能な形になっていない点や「検証」が掲げられつつも、学校教育の性質上、実際は検証手続きの実施が困難である点を初発の問題意識として、仮説探索型あるいは仮説生成型の授業研究の方法論の可能性を検討した。具体的には、年間の共通研究テーマを掲げ（昨年度のテーマは「子供とつくる学び：学びのつながりという視点から捉えなおして」）、教師自身が自らの実践に対して「問い」を立て、実践を重ねることを通してどのように「問い」が変容していくのかという研究を行った。この研究から、共通テーマについて学校や学年団、教科団等の共同体内で解釈を練り上げていく過程で、よりよい授業像が共有されていくことを明らかにした。</p> <p>この昨年度の研究を継承しながら、今年度は、解釈の練り上げ過程で教師が自分自身の〈観〉（授業観、教育観、教師観）を深める契機と過程について検討した。具体的な研究方法として、教師による実践記録の作成、その共同検討会の実施、共同検討会を通じた教師の認識の変容に関する質的調査を行った。昨年度、実験的に実施した教師の教育実践記録を、今年度は本格的に導入することで、書くことを通して教育に対する教師の諸認識がどのように変容するのかを質的に描き出すことができた。検討に際しては、昨年度同様、研究者（大学教員）と実践家（附属校教員）がおおよそ月1回の研究会を実施し、実践記録の検討と各時点での共通テーマに関する教師の認識に関する定点観測（省察的記述の作成）を行った。</p>
<b>研究課題の構成員 （リーダーに※）</b>	森本和寿(大阪教育大学)・池住祐亮※・石光政徳・大貫翔貴・澤田崇明・末廣彩華・中渉・萩谷桃子(附属池田小)

※様式は頁数が増えても差し支えありません。